

アマモを育てて生き物がにぎわう海へ！ ～志布志港で海の環境学習会とアマモの苗付けを行います～

志布志の海の生き物について学びつつ、地域の関係者が協働して海の“ゆりかご”であるアマモ場を作るため、海の環境学習会とアマモの苗付けを行います。

1. 海の環境学習会とアマモの苗付けについて

日 時	令和7年2月11日(火・祝) 9:00～11:30 ※8:50 集合
場 所	国土交通省 九州地方整備局 志布志港湾事務所 (鹿児島県志布志市志布志町帖6617-182)
内 容	①志布志湾の海の環境学習会 ②アマモの苗付け準備のお手伝い ③ダイバーによるアマモの苗付け作業
募 集 人 数	先着約30名(小学生以下は保護者同伴)
取 材 申 込	当日の取材を希望される方は、2月7日(金)12:00までに、 下記「取材申込書」に記載のメールアドレスまでご連絡いただきますよう お願い致します。
主 催	志布志市生物多様性センター 詳細は、別紙のチラシをご参照ください。



2. ブルーカーボン生態系を活用した豊かな海の実現、地球温暖化対策への貢献について

国土交通省は海洋植物が持つ CO₂ 吸収や水質浄化といった効果に着目し、ブルーカーボン※生態系を活用した CO₂ 吸収源の拡大によるカーボンニュートラルの実現への貢献や生物多様性による豊かな海の実現を目指しています。

※ブルーカーボン: 海洋植物に取り込まれた炭素

取 材 申 込 書

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 志布志港湾事務所 TEL : 099-472-3831

総務課長 渡邊 雅史 (わたなべ まさふみ)

総務係 二宮 涼 (にのみや りょう)

アマモを育てて
生き物がにぎわう海へ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



うみ かん きょう がく しゅう かい
海の環境学習会

なえ つ
とアマモの苗付け

志布志の海には、たくさんの生きものたちが生息しています。

海の生き物について学びつつ、海の“ゆりかご”と言われているアマモ場を
いっしょに作ることで、志布志湾を生き物が過ごしやすい場所にしませんか？

アマモって何だろう？

アマモの役割は？



日時：令和7年2月11日(火・祝)

午前9時00分～11時30分 ※8時50分集合

場所：国土交通省九州地方整備局 志布志港湾事務所

(志布志市志布志町帖6617-182)

内容：①志布志湾の海の環境学習会

②アマモの苗付け準備のお手伝い

③ダイバーによるアマモの苗付け作業

参加者：先着約30名の市民(小学生以下は保護者同伴)



↓アクセス



申し込み先：志布志市生物多様性センター ☎西川 090-4301-9091

(申込期限：2月4日(火))

主催：志布志市生物多様性センター

共催：志布志湾再生プロジェクトX

協力：国土交通省九州地方整備局志布志港湾事務所、志布志漁業協同組合

後援：志布志市、志布志市教育委員会

助成：令和6年度鹿児島県みんなの生物多様性サポーター支援事業

ブルーカーボンとは

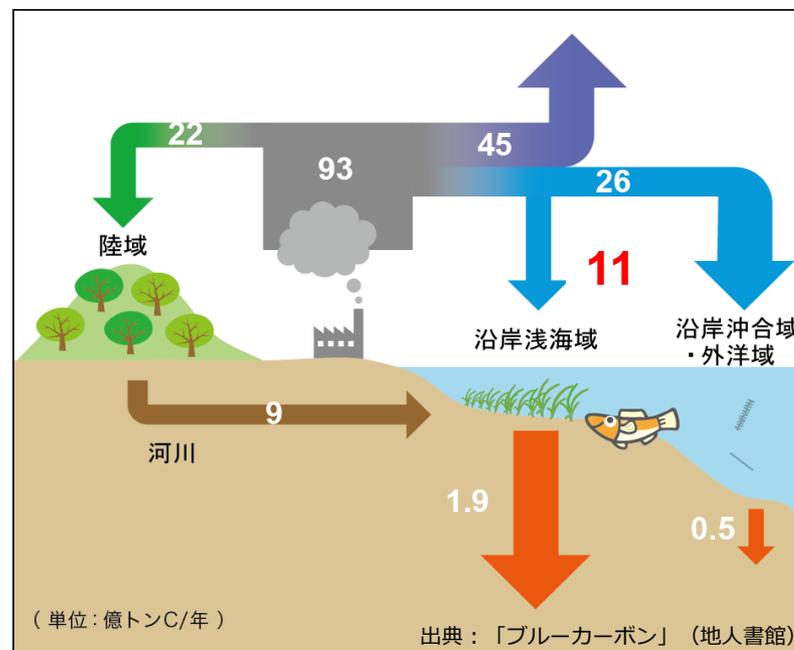
- ◆ 2009年10月に国連環境計画（UNEP）の報告書において、**海洋生態系に取り込まれた（captured）炭素が「ブルーカーボン」と命名**され、吸収源対策の新しい選択肢として提示
- ◆ 四方を海に囲まれた日本にとって、沿岸域の吸収源としてのポテンシャルは大きい。ブルーカーボンの活用にあたっては、その評価方法や技術開発の確立が重要

国連環境計画（UNEP）の報告書
「ブルーカーボン」



海表面の0.2%程度にあたる沿岸浅海域では、炭素が1.9億t-C/年（地球全体の80%近く）の速さで海底に貯留

炭素循環のイメージ



排出された二酸化炭素のうち、一部が陸域（22億t-C/年）や海洋（26億t-C/年）に吸収

ブルーカーボン生態系（海草藻場、海藻藻場）

「藻場」 大型藻類や海草が、濃密で広大な群落を形成している場所
 （環境省自然環境保全基礎調査では、「面積1 ha以上、水深20 m以浅」の群落）

「海草（うみくさ）藻場」

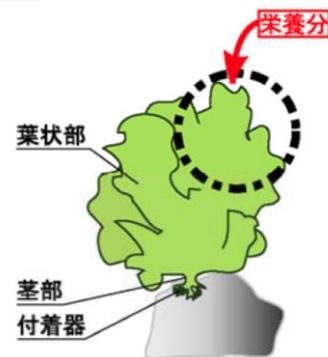
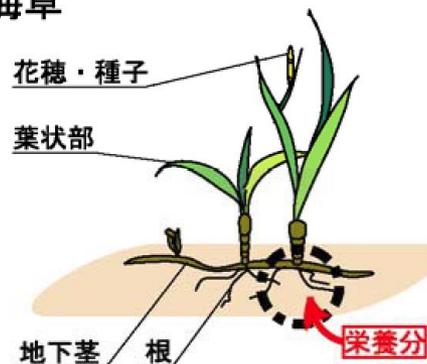
- ◆ 主に温帯～熱帯の静穏な砂浜や干潟の沖合の潮下帯に分布
- ◆ 根・茎・葉が分かれている維管束植物（種子植物）。砂や泥などの堆積物中に根を張って固定
- ◆ 代表的な海草：アマモ、コアマモ、スガモ

「海藻（うみも）藻場」

- ◆ 主に寒帯～沿岸域の潮間帯から水深数十mまでの岩礁海岸に多く分布
- ◆ 根・茎・葉の区別がなく、岩などに固着
- ◆ 代表的な海藻
 緑藻・・・アオサ
 褐藻・・・コンブ、ワカメ
 紅藻・・・テングサ等



かいそう
海草



ブルーカーボン生態系(干潟、マングローブ)

「干潟」

- ◆ 海岸部に砂や泥が堆積し勾配がゆるやかな潮間帯の地形。水没～干出を繰り返す
- ◆ 環境省の定義では「干出幅100 m, 干出面積1 ha, 移動しやすい基質(砂、礫、砂泥、泥)



上：松島湾（宮城県），下：谷津干潟（千葉県）

「マングローブ」

- ◆ 熱帯、亜熱帯の河川水と海水が混じりあう汽水水域で砂～泥質の環境に分布。国内では鹿児島以南の海岸に分布
- ◆ 代表的なマングローブ植物：
オヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギ



西表島



メヒルギ群落

アマモ場再生ガイドブック（平成20年3月、三重県農水商工部水産基盤室）
日本の自然（環境省）
「鹿児島&沖縄マングローブ探検」ウェブサイト

ブルーカーボンのメカニズム

